

特集 地域を変える力 （笠間市地域おこし協力隊）



- ①河又隊員のカフェ「まちのベンチ」にて ②竹の筒明かりづくり体験 ③笠間の新鮮野菜を PR
④「まちのベンチ」を自分で改修 ⑤お客さんと賑わうガルテン直売所 ⑥笠間市特産品の小菊の出荷作業
⑦市内イベントでお茶を提供 ⑧笠間クラインガルテン利用者募集相談会 ⑨民家体験に来た生徒達と
⑩ガルテンイベントでポップコーンを販売 ⑪稲刈りに参加

笠間市
地域おこし協力隊
Facebook
隊員の活動などを紹介しています。



『地域おこし協力隊』は、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、概ね1年以上最長3年の期間、都市部の意欲ある人材が地方へ移住し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

笠間市では、平成25年度から地域おこし協力隊を受け入れ、現在5名の隊員が活動しています。

今回の特集では、隊員が活動を通して感じている笠間の魅力や、想いなどをご紹介します。

笠間の ここが 好き！

美しい里山の風景、
新鮮な野菜、
豊かな文化、
温かな人たち。
地域おこし協力隊の
活動を通して、
笠間の魅力を日々
感じています。

笠間へ移住してきた
私たちだから
より強く感じている、
笠間の魅力を
お伝えします。

活動 2 年目
観光振興担当

おお つか かつら

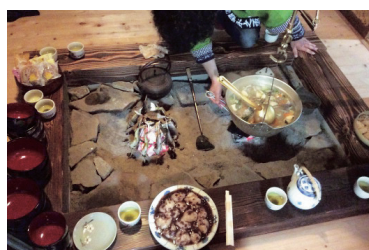
大坪 桂 隊員

千葉県の中学校を定年退職し笠間へ移住。民泊やふれあい体験旅行の取り組みを通して、笠間の魅力を首都圏や海外に発信している。



“四季の風景と笠間の日常”

私は、名所・名物といったものより笠間の人にとっては当たり前
の四季の風景や日常のくらし
(行事や衣食住) に魅力を感じま
す。里山とその前に広がる田園
風景、直売所にならぶ四季折々
の野菜、その新鮮な野菜を使っ
た郷土料理の豊かさ、そんなと
ころに笠間の魅力を感じます。
都会から民家体験に来る子ども
達もきっとそうだと思います。



笠間の新鮮野菜を使った郷土料理



里山と田園風景

活動 1 年目
笠間クラインガルテンの
運営強化担当

おか もと こう じ

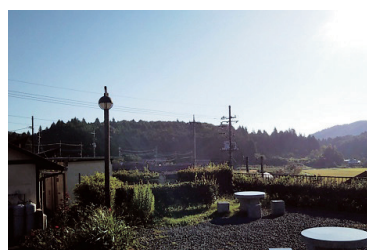
岡本 浩二 隊員

姫路市から移住。クラインガルテンの運営強化のため、直売所の魅力向上への仕掛けやイベントの企画などを行っている。関西弁がトレードマーク。



“心安らぐ景色と新鮮野菜”

私が感じる魅力を二つ紹介します。一つ目は、心安らぐ景色。街中に栗畑が多々ある事に驚き、起伏の少ない景色に心安らぎます。毎朝、クラインガルテンから見る景色が格別で、元気をいただいています。二つ目は、新鮮野菜が多いところ。こんなに美味しく、こんなに野菜を食べているのは人生初。新鮮野菜がいっぱい溢れているのが、笠間の魅力です。



朝のクラインガルテンからの景色



笠間のおいしい新鮮野菜

活動 1 年目
農業振興担当

かわ しま ひらく

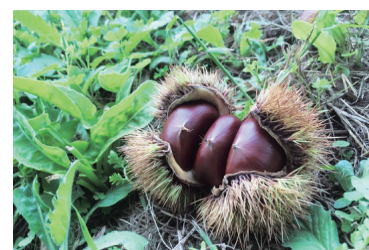
川島 拓 隊員

小美玉市出身。札幌市の金融機関で農業者と関わる仕事を経て笠間へ移住。農業の魅力を発信をしながら笠間での就農を目指す。



“豊かな食と農業”

笠間の豊かな食と農業に魅力を感じます。きれいな水と豊富な日照、適度な寒暖差。そして、古くから発展した歴史を持つ笠間市は、年間を通じて質の高い農産物が作られています。また、多くの農業者が農業を減らしたり、地域の資源を活用したりと環境に配慮しながら持続可能な農業を営んでいることも魅力の一つだと感じています。



笠間の特産の美味しい栗



笠間の食材を使ったバーベキュー！



活動 3年目
都市農村交流担当

く ば あおい
久保 葵 隊員

岩手県出身。東京でブライダル業界、花屋でのフローリストを経て、笠間に移住。クラインガルテンを拠点に、都市農村交流に向けた活動や農泊、グリーンツーリズムの推進などを行っている。

“「農と陶」の魅力。移ろう里山の景色。”

笠間に移住して、「食」がとても豊かになりました。農産物は旬のものがすべて笠間産で揃い、うつわを選ぶ楽しさや、作り手の顔が見える安心感や豊かさは、他では感じることはできない笠間ならではの「農と陶」の魅力だと感じています。

また、日々移ろう里山の景色も魅力のひとつ。特に厳しい寒さの冬を越えて、春の息吹が感じられる“山笑う”季節が大好きです。



農と陶の魅力

地元のお母さん手作りのお漬物と笠間焼のうつわ。どちらも作った方の顔が見えることは笠間ならではの豊かさ。

移ろう里山の景色

クラインガルテンへの出勤時に必ず通る加賀田周辺の景色は、毎朝気持ちシャランとさせてくれます。



活動 3年目
移住交流担当

かわ また けい た
河又 恵太 隊員

北茨城市出身。東京・神奈川で過ごし、前職は日本茶店に勤務。現在は、友部駅前に自分で空き家を改修したカフェ「まちのベンチ」をオープンさせ、友部駅前の活性化に関わる活動をしている。

“いい刺激を受けながらチャレンジができる”

笠間に来て、イベントの多さと、陶芸家さんや絵描きさんなどの、アーティストの方と距離が近いことに驚きました。お話をしていて刺激になることが多く、運営しているカフェでもさまざまな面で協力、応援していただいています。

さらに、まちの方たちも何かを始めようとしている人への理解が深く、活動していく上でとても助かりました。



まちのベンチ DIY

コツコツ床を張ったり、壁を塗ったり、棚を作ったり。来年には2階の改装も終わる予定なので、そちらもお楽しみに!!

陶と暮らし。

若手の作家さんが多く参加する陶器のイベント。僕が笠間に来て初めて行ったイベントでもあります。大切な出会いもありました。



隊員お気に入り風景アルバム



地域おこし協力隊が変えたまちのこと

活動を通して関わっているまちの方たちに隊員のみなさんについてうかがいました

『地域とのつながりを大切に』



元笠間市地域おこし協力隊

やなぎさわ あきら

柳澤 明さん

2019年3月に協力隊の任期満了を迎え、7月市内に自身の会社「Smiles Gate」を起業。

活動2・3年目の3人とは任期も重なって、着々と成果を積み重ねている様子を同僚として拝見していました。

私の任期終了後も地元の方とのお話の中で、隊員の名前を聞くことが度々あり、誠実な活動で繋がりが広がっていることが感じられて、先任者として嬉しくもあり、自分の励みにもなっています。

隊員の成果には、形として残るものもありますが、それ以上に、何かあったら相談できる、頼れる地元の人がいることなど、目には見えない部分により現れるように思います。自分の好きなこと、やりたいこと、得意なことを活かして、地域とのつながりを大切に、ますます元気に活躍されることを願っています。

『タイミングと環境の巡りあわせ』

友部地区でお絵かき教室ができる場所を探していた時に、ちょうど「まちのベンチ」が完成し、河又さんから声をかけてもらいました。

まちのベンチのゆっくりとくつろげる空間、そしてお絵かき教室中に子ども達が少し騒がしくしてしまう時、やさしく、でもきちんと注意してくれるそんな河又さんの人柄、本当にここで教室を開催できることに「巡りあわせ」を感じています。

自然な気づきができる人、河又さんのことをこれからも応援していきたいです。



まちのベンチでお絵かき教室を開いている

あたか ゆきさん、さいとう しおり 齋藤 詩織さん

『がさまを愛してくれている隊員とともに』



笠間クラインガルテン所長

いしい じゅん

石井 淳さん

2019年4月から宿泊施設付き市民農園「笠間クラインガルテン」の所長として着任。

今、大きな転機を迎えている「こガルテン」では2名の隊員がフル稼働中です。

久保隊員は、ガルテンでの生活の楽しさを体験してもらう「ガルテン村マルシェ」など新たな企画の運営や、利用者と市民とのコミュニケーションの創出など活発に活動していてガルテン利用者からも人気です。

岡本隊員は、ガルテンから提供できる直売所の体験事業の強化やわた菓子・ポップコーンなどのキッズコーナーを設置し、三世代で楽しめる施設づくりを行っており、そこには子ども達の笑顔がはじけています。

ガルテンの本当の魅力を伝えられるのは、かさまを愛してくれている協力隊の2人かもしれないと感じています。皆さんもガルテンに、そして協力隊の2人に会いに来てください。

これからも皆さんと一緒に

地域の魅力を発信、発信しながら、それぞれの得意なことを活かして地域活性化に取り組み地域おこし協力隊。隊員が語ってくれた「好き」という笠間の魅力を通して、私たちが普段目にしている風景、あたり前の日常、そして食が、実はとても魅力的であることを、皆さんに再認識していただけたらうれしいです。活動を通して関わる多くの皆さんからの励ましの言葉が隊員の一番の原動力です。

魅力が満載の笠間市でこれからも協力隊は、まちの活性化のために頑張っていきます。もちろん市民の皆さんと一緒に。

隊員のことをどこかで見かけた際はぜひ声をかけてください。これからどうぞよろしく願います。

【問い合わせ】

秘書課(内線224)